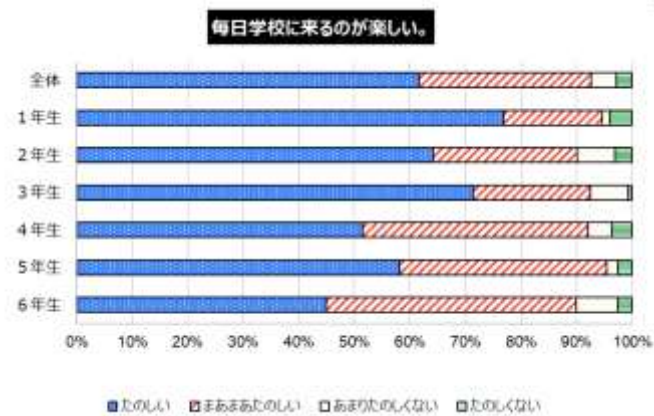
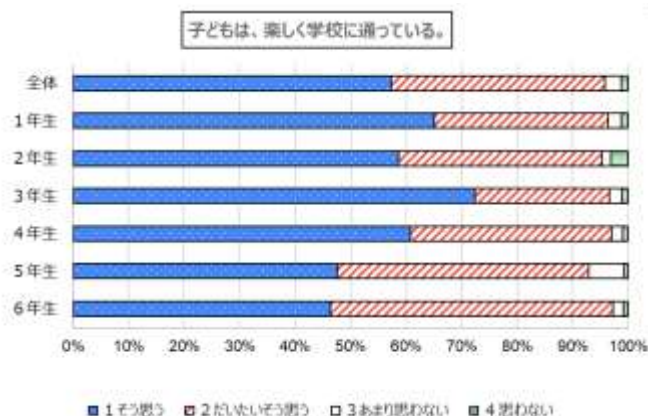
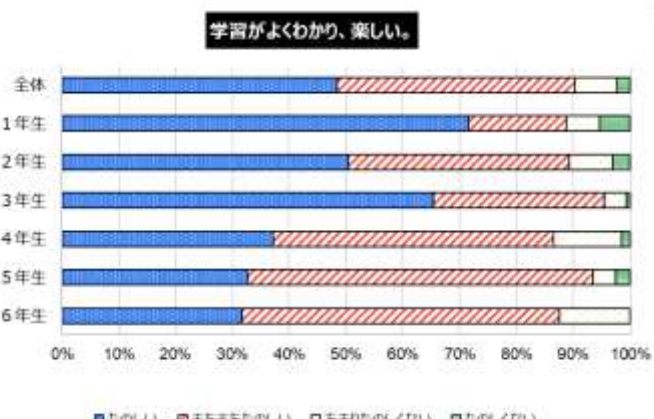
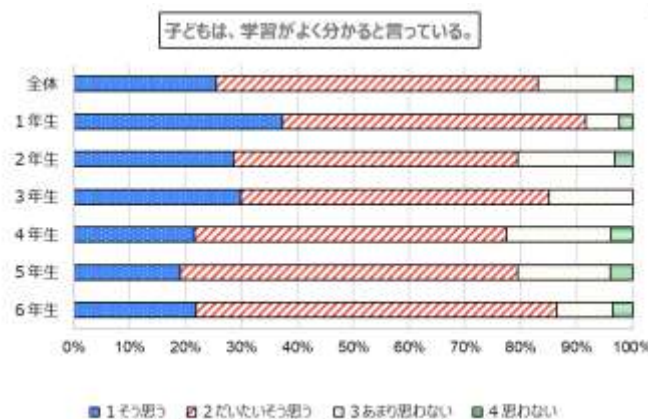


令和5年度 学校評価アンケートの結果 ①保護者と児童の比較

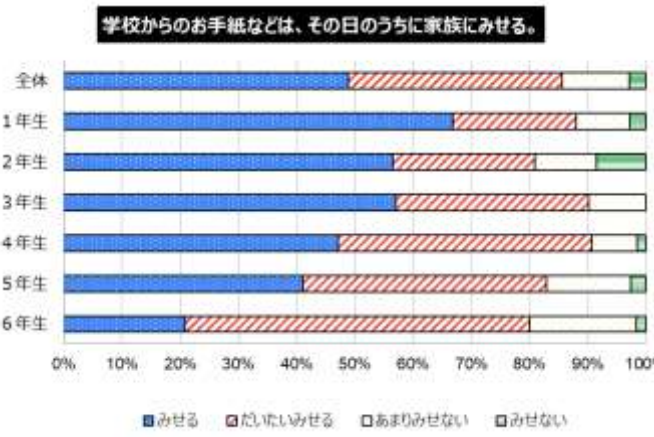
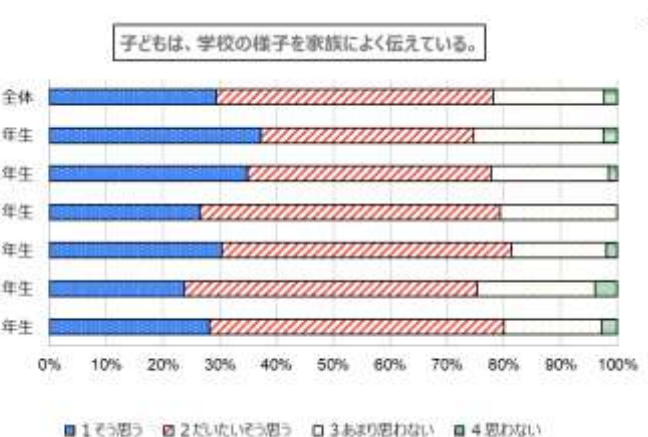
同じような内容項目について、保護者（左）と児童（右：白抜き文字）で比べてみました。



子どもたち全体の93%が学校に来るのが楽しいと答えています。保護者の方96%は、お子さんが楽しく通学していると捉えています。子ども自身が学校を楽しんでいると感じ、保護者の方がお子さんの様子をこのように感じられているご家庭の割合が高いことは、学校としても、教育活動の成果と受け止め、今後も維持向上に努めたいです。一方では「あまり思わない。思わない。」というお子さんがいる実態があることは重く受け止めて支援につなげます。今後も「楽しい学校」をめざして教育活動の一層の充実を図りたいと思います。



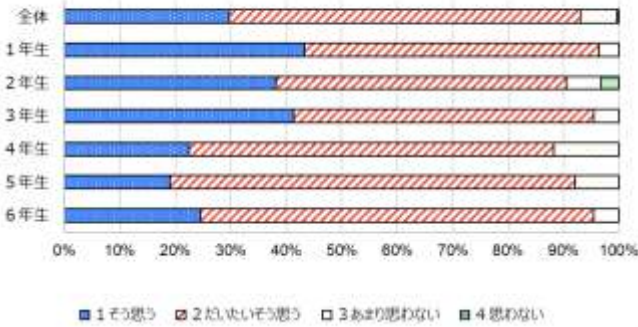
6年連続で、子どもたちの9割以上が楽しく学習し、内容を理解しているという自己評価をしています。1～3年生の50%以上の子どもが「そう思う」と自信をもって答えていることは教科指導の成果と受け止めています。その反面、学年により割合が少なくなっている実態があることは重く受け止め改善を図りたいです。アンケートにある結果から、高学年へと進むにつれて学習内容が難しくなってくることを踏まえ、学習指導のあり方を一層研究し、教員の授業力向上と「わかる授業」づくりに励んでまいりたいと思います。



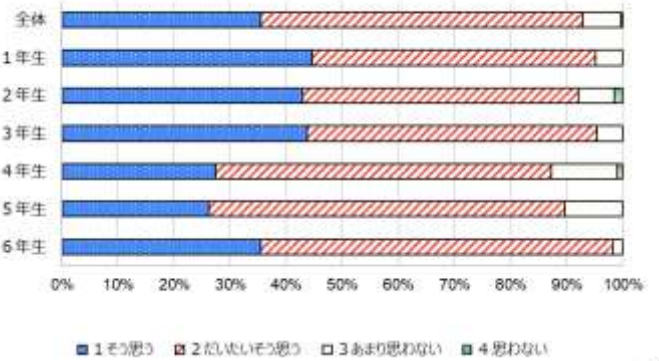
学校からのお手紙などをその日のうちに家族に見せるというお子さんが、全体で90%を下回り、昨年度より減っていることが気になります。お便りは、その日のうちにおうちの方に見せるという習慣を、しっかり身につけていくように学校でも生活指導に力を入れます。大切なお知らせをおうちの方と共有し、学校での様子をご家庭で話すというコミュニケーションは、子どもの健やかな成長の中で重要なことなので、学校においてもその指導・助言を継続していきたいです。

②他の項目について 上：保護者 下：児童（白抜き文字）

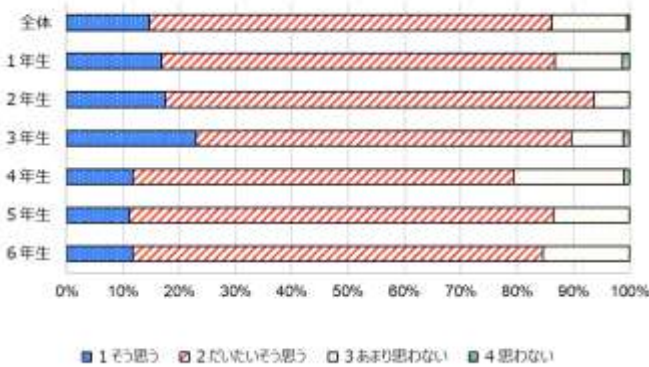
学校は、基礎・基本の定着に向け、教材や学習の工夫を工夫し、分かりやすい授業を行っている。



学校は、子どものよいところを認め、よさを伸ばそうとしている。



保護者は、学校の運営方針を理解し、積極的に学校とかかわっている。



「子どものよいところを認め、よさを伸ばそうとしている」「分かりやすい授業を行っている」と捉えている保護者の方が90%を超えていることは、教員の意欲を高め、教育活動の向上につながるものと期待します。今後も自己研鑽に励み、授業実践の工夫、学級経営や児童支援の充実を図るよう努める所存です。

学校運営や学校へのかかわりについての項目では、全体で85%を超える保護者の方々が運営方針を理解いただき、進んで学校とかかわりをもっていることがわかりました。ただし、学年により課題がある実態は真摯に受け止め、運営の向上につなげたいです。

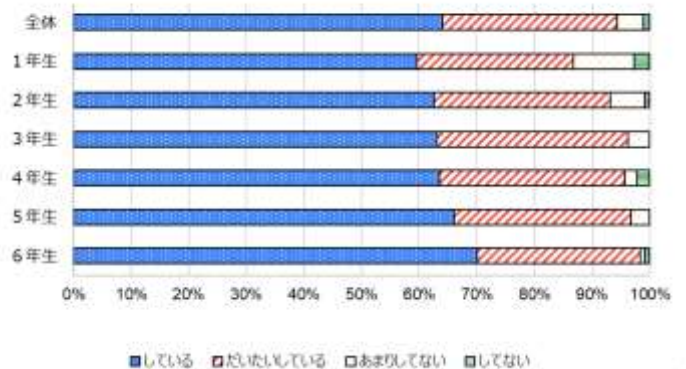
「早寝・早起き」「朝ごはん」の結果は、全体的にほぼ昨年度と同様でした。この点を扱う教材や学習計画はありますが、ご家庭と学校が協力して声をかけたり、支援したりしていくことが大切であると考えています。

友達と助け合い、協力し合っていると感じている子どもは、全体で90%以上、「そう思う」と答えた児童は4年間で43%⇒62%⇒67%⇒64%と児童の思いが高まっている状況にあります。子ども同士お互いに認め合い協力し合える学級づくりに努めていることが成果を上げているということは教員の自信につながります。

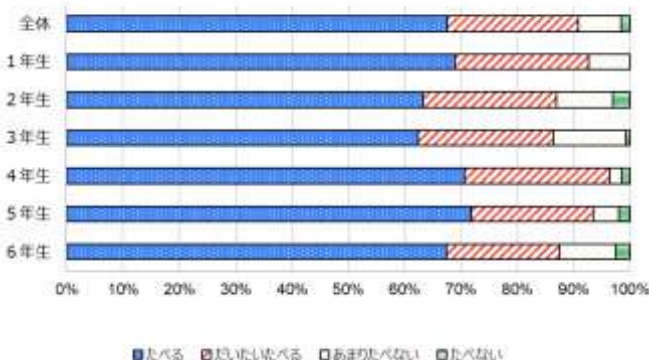
困ったときに教員や家族に相談している児童の割合は、この3年間で77%⇒82%⇒79%という結果ですが、このポイントは高めたいです。教員が児童に寄り添い、いつでもどこでもどのようなことでも児童が悩みや困ったことを相談できる体制を整えていきます。

各項目とも「思わない」と回答している児童がいるという実態を重く受け止め、教育活動に改善や工夫を施し、よりよい教育活動を実現します。

いろいろな活動をするときに、友達と助け合い、協力し合っている。



早寝・早起きをし、朝ごはんをきちんと食べる



困ったことがあったら、すぐに先生や家族に相談している。

